

和泉國略調略中 筥坏廿六口、略中 短女坏九十二口、小坏百卅五口、

近江國略調略中 大筥坏一千三百六十口、小筥坏百六十口、深坏六十口、

美濃國略調略中 雜坏廿口、略中 清坏廿口、足下坏五十口、油坏卅六口、斐坏六十口、

〔執政所抄下月〕亥子御餅事

深草小春日坏立紙盛之、居例折櫃、

〔續修東大寺正倉院文書四十三〕莒陶司石山寺充雜器事

陶坏陸拾口 鹽坏陸拾口略中

天平寶字六年二月九日

正六位上行正林連黑人

〔空穂物語吹上之下〕はまのほとりの花さかりになりぬ、君達花御覽じには、やしのおんに出給ふ、

略中 ぢむのおしき廿ぢむのろくろひきのおほんつきども、まき物うちしき心ばへめづらかな

略中 君だち御はらへしになぎさのゐんにいで給て、略中 かねの御つきどもしておまへごと

にまいりたり、

高坏

〔運歩色葉集多〕高坏

〔貞丈雜記七膳部〕一たかつきと云は、食物をもるかはらけの下に、わげ物の輪を置たるを云也、つき

と云は坏の字也、土器茶碗などの類を、すべてつきと云也、かわらけの下には輪を置て、坏を高く

する故たかつきといふ也、大草流の書に、式三獻の折敷高つき也とあるは、右の土器の下にわげ

物を置く事也、今時〇如此なる物を、木にて作りて高坏と云も、かわらけの下にわげ物の輪を置

て、高くしたる形をまなびて作り出したるなり、

〔雅亮装束抄一〕りんじきやくのこと